



西尾寿博議員

大山診療所はどうなる

応えられる範囲で医師を探す

問 医師不足は全国的な問題で山間地、離島などは特に深刻な状況になっている。大山町は、まさにその典型である。

1、大山診療所は赤字経営になっている。その要因は。また、施設の元利償還の期間、ピーク年度は。

保険改正により収入減になった。
建物の償還は平成43年度まで、医療機器の償還が平成25年度まで。

大山診療所の岡田医師は、9月末で退職される。

(1) 4人の医師給与の総額と手当てなどの内訳は。

答 (山口町長)
(1)平成18年度の4人の医師給与、手当等の総額は、5,358万円。

(2) 一般病床10床、介護型療養病床9床が、医師就任の障害になってはいないか。

(2) 19床が、医師就任の障害になっているのは事実である。

(3) 勤務状況によるが、鳥取県の医師平均給与は、全国平均より100万円低い1500万円。岡田医師も同じ位である。

また、介護型9床は、一般病床にするか何か、転換期にきている。

医師給与は辺地になればなるほど、高額になる傾向がある。ちなみに、北海道は平均で2300万円。

(3)他の3人の医師の関係もありバランスをとりながら医師が求める条件等、応えられる範囲で、医師確保に取り組みたい。

もし、後任が決まらない場合、給与アップ、待遇改善をするのか。

(4)赤字の原因は、共に平成18年度から、リハビリセンターは、建物、大山診療所は、医療機器の元利償還が始まったこと。

(4)大山口リハビリセンター

さらに、今年4月から治療の医療



医師の確保が望まれる大山診療所



小原力三議員

大山診療所の医師確保

様々な努力をする

問 昭和30年旧大山町発足と同時に開設され、周辺の住民の診療に大いに

貢献してきた。

昭和50年から若田医師が管理者になり、約30年間献身的に地域住民の医療に貢献していただいた。

後任の岡田医師が退任されると聞き、住民の落胆は大きく、診療所の存続を望む切実な声が聞こえる。

来年度からの医師の確保は、未定と聞いている。医師を確保し、地域住民のために診療所存続を望む。

さらに、8月中旬には、町のホームページ等で県内に限らず募集の手を広げたとところである。

これからも、様々な方法で、医師の確保に努力していく。

答 (山口町長)

地方の医師不足は大きな社会問題となっている。

鳥取県においても医師の研修制度の改正で、県内に研修医として残る医師が少なく医師不足に拍車がかかっている。今度のように退職される医師があると、医師不足が現実となって重くのしかかっ

てくる。確保の方法は、名和診療所では、県から自治医科大学を卒業した医師を2年から3年の周期で派遣していただいている。同様に、大山診療所にも派遣の要望をしている。また、大学など町との関係の深い医療機関にもお願いしている。